

アクアリウム・ダイアリー

2024年3月～2024年5月

催し物

～3月14日	季節展示「Valentine's Day & White Day 白い天使がやってきた～あなたの気持ち、きっと伝わる～」	4月20日～21日	飼育の日 世界ペンギンデー記念イベント「ペンギンの秘密 ～飼育係が明かす、驚きのペンギン事情～」開催
～4月7日	特別展「によろによるEXPO ～魅惑のLongBody(ロングボディ)～」	4月27日～5月6日	ナイトパフォーマンス実施
3月12日～	マイワシのトルネード春Ver.開始		
3月26日	名古屋港スナメリ観察会	【水族館スクール“もっと知りたい!ダーウィン教室”】 3月10日	「大接近!ペルーガ飼育の舞台裏」 参加者5組13名
3月26日～5月6日	季節展示「春はあけぼの水槽」アケボノハゼ展示	5月12日	「感じて納得!めざせシャチ博士」 参加者6組16名

生物の出来事

3月10日	金沢大学臨海実験施設より ナマコ類搬入	4月12日	「バンドウイルカ ウィニー妊娠 6か月」 ニュースリリース(2023/9/19-20に人工授精実施)
3月21日	南極生物 8種26点 搬入	5月28日～	スケトウダラ 初展示

来訪者

4月 9日	三重大学 森阪匡通教授	4月24日	東京大学大気海洋研究所 坂本健太郎准教授、 名城大学 榎崎友子助教
4月10日	藤田医科大学 柘尾巧先生	5月22日	サン・ペドロ大学(コートジボワール) メケ・メイテ学長、上智大学 永井敦子副学長
4月15日	STRETCHチーム George Balazs氏	5月22日	金沢大学 鈴木信雄教授、 能登里海教育研究所 浦田慎主幹研究員
4月17日	しまね海洋館アクアス 湊直樹館長 河岸孝明課長		

講演・その他出来事

【講演・イベントなど】

3月 9日～10日	ポートメッセなごや開業50周年記念「キッズ未来体験EXPO」出展	3月28日	金城学院大学折り紙ワークショップ「ウミガメを作ってみよう」開催
3月 9日～10日	動物園水族館大学 (参加:神田幸司)	4月20日	JAZA将来構想会議(オンライン参加:榊原正己)
3月12日～13日	JAA第4回水族館研究会 (参加:坂岡賢)	5月26日	神戸須磨シーワールド内覧会 (出席:福本洋平)
3月13日	あいち観光ボランティアガイドの会 名古屋地区会(出席:加藤浩司)	【職場訪問・水族館レクチャー】	14件 771名
3月23日、5月18日	名古屋市環境学習センター(エコパルなごや) 「ワークショップin名古屋港水族館」開催	【職場体験】	1件 2名
3月24日	名古屋市動植物実態調査に係る専門家会合 (出席:中嶋清徳)		

編集後記

職業柄(?)水族館や動物園、博物館や美術館によく足を運びます。もちろん展示そのものが一番の目的ではありますが、ときにオリジナルグッズ欲しさに向くこともあります。グッズはニッチであればニッチであるほど財布の紐が緩むというもので、最近とはある特別展でセンジュナマコのぬいぐるみを衝動買い。後々「コレ何だっけ?」とならないために、タグは切らないでおくのがマイルール。限定モノほど一期一会、いつ買うの?今でしょ!(宮嶋)

表紙写真

【シャチのアースとぬいぐるみ】

意外と大きなアースの下あごもしっかりと再現されています。

ニュースレター さかなかな Vol.122 2024年夏
発行/公益財団法人名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館
〒455-0033 名古屋港区港町1番3号 TEL.052-654-7080
URL <https://nagoyaaqua.jp>
本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。

WEBサイト
<https://nagoyaaqua.jp>
(なお、一部の機種でご覧いただけない場合があります)



さかなかな

2024 夏

Vol.122



名古屋港水族館

特集

ミュージアムショップと商品開発

- 水族館トピックス
- 水族館アカデミー ダーウィンの箱
- ほねほね探検隊
- ボランティア便り
私の館内おすすめポイント
- 水族館スクールレポート
- アクアリウム・ダイアリー

ミュージアムショップ

と 商品開発

総務管理課 堂崎 正博

水族館のお土産屋さん、と言ってしまうのが一番簡単です。小さなお子さんがお気に入りのグッズを見つけて保護者の方におねだりする姿はほほえましいものです。予算が決まっている小学生はベルーガのキーホルダーにするかシャチの柄のついた定規にするか迷っています。県外から旅行で訪れたご家族は会社やご近所の方に配るお菓子は「名古屋港水族館」のロゴが入った個包装でできるだけ数が入っているものをひとつで足りないかな？ふたつ買って帰ろう、こちらの柿の種やラムネのコラボ商品もかわいいな。ペンギンが大好きな大学生はリアルぬいぐるみの顔が一番かわいい子をおうちに連れて帰ろうと時間をかけて吟味をします。

「水族館をおうちに持って帰る」というコンセプトはミュージアムショップで一番大切な考え方です。自分のために、大切な人のために、楽しかった水族館の思い出を持って帰る空間がミュージアムショップです。



商品開発

来館者が発信するSNSには水族館で印象に残ったものの写真がアップしてありますので商品開発のヒントになります。先日発売した「潜水服」のブックマークは、生き物以外では珍しく写真がアップされる展示物です。小さなお子様には特に怖がられる展示ですが、名古屋港水族館深海コーナーの独特な雰囲気と恐怖の象徴、一回見たら忘れないラスボス感あふれる「潜水服」は、水族館来訪の思い出を想起するきっかけみたいな役割がありそうです。こんなグッズの裏にも詳しく潜水服の説明をつけています。



商品開発された水族館のオリジナルグッズは水族館の役割や飼育係の思いを小分けにした、思い出入りお持ち帰り専用超小型水族館です。お気に入りの超小型水族館をじっくり時間をかけて探してみてください。

「潜水服」の館内写真と商品のブックマーカー

ぬいぐるみができるまで

ショップの担当者から「アデリーペンギンとヒゲペンギンのぬいぐるみを販売したい」と打診がありました。少し前にジェンツーペンギンのぬいぐるみの販売を始めたところで、売れ行きは好調とのこと。当館で飼育する南極のペンギン、Pygoscelis属3種（ジェンツー／アデリー／ヒゲ）のこだわりぬいぐるみ贅沢セット販売も夢ではなくなりました。

ジェンツーペンギンのぬいぐるみは総排泄孔を表現してもらい、泳ぐために進化したペンギンの硬い翼（フリッパー）もつけてもらいました。ヒゲペンギンは顎ひものような頭の模様が特徴的ですが、よく見ると目の下で模様が目から離れるように湾曲しています。試作段階では直線的に表現してしまい、飼育係にダメ出しを食いました。



▲ ジェンツーペンギンのぬいぐるみ ▲ こだわりの総排泄孔



▲ 頭部のデザイン修正前(左)と修正後(右) ▲ 開発中のヒゲペンギン



商品開発担当者が飼育係にダメ出しをされています。この打ち合わせは前向きでとても楽しいものです。

水族館の教育普及の現場では動物の説明をする際には、生きた動物そのものやその標本など、本物の資料（一次資料）を利用するのが最も良いのですが、ペンギン類やイルカ・クジラの仲間を生きたままレクチャールームに連れてくるわけにもいきません。その点、その動物の特徴的なところを表現しているぬいぐるみはとても便利で、レクチャーを受けるお子さんの中にも生き物が苦手な方にも安心して、直接お渡しして、詳しくお話をすることができます。体色なども正しく表現することで、一次資料への理解も深まります。

イルカ・シャチのぬいぐるみ



細部（生殖溝部分）にもこだわりのデザイン。水槽の実物と見比べてください

飼育係の監修はとても重要です。普段からその動物とかかわっており性格まで把握しているの、いわゆる図鑑的な視点ではありません。自分の家族のように接しているからこそ見えるその動物の特徴をぬいぐるみに投影することができます。

そして、しっかりと作りこまれた質の高い動物のぬいぐるみはこだわった分だけ「ちゃん」と売れます。名古屋港水族館のブランドを表すタグつけ、ぬいぐるみからわかる生物情報も一緒に取り付けます。新作はショップの一番表の棚に陳列されます。



南極地域観測隊に参加しました

令和5年10月26日から令和6年3月21日にかけて第65次南極地域観測隊に参加しました。私は、先遣隊として南アフリカ共和国のケープタウンから航空機で昭和基地に向かいました。

昭和基地には11月5日から2月6日まで3か月間滞在しました。私たちの任務は、南極の海での魚の調査でした(課題名「海氷下における魚類の行動・生態の解明」)。

海氷にドリルを使って穴を開け、魚を釣ります。魚に超音波発信機を装着して放流し、その魚から発信される超音波を複数の受信機で受信することによって魚の位置情報を得ます。このデータを解析して魚の行動を調べます。

調査は昭和基地周辺の7か所で行い、9種632匹の魚を捕獲しました。捕獲した魚の大部分は冷凍して日本に持ち帰り、解剖して食性、成長、成熟度などを調べます。

帰路は航空機ではなく、南極観測船「しらせ」に乗船し、船内で魚を飼いながらオーストラリアのフリーマントルまで行きました。そこからは、我々も魚も日本まで空路で移動しました。

持ち帰った魚を始め、南極地域観測隊で経験してきたことを特別展で紹介する予定です。



海氷に開けた穴で釣りをする。釣れた魚はショウワギス。

■ 飼育展示第一課 松田 乾

「ペンギンの秘密～飼育係が明かす驚きのペンギン事情～」を開催しました

4月19日の「419(しいく)の日」と4月25日の「世界ペンギンデー」を記念して、レクチャーイベント「ペンギンの秘密～飼育係が明かす、驚きのペンギン事情～」を4月20日・21日に開催しました。

「自分がびっくりするような話がでてくるんだよね～」

とタイトルを見た館長(元ペンギン飼育係担当!!)からの立派なペンギンハラスメント(!?)から始まったこの企画。飼育を通して見たペンギンの生態や実体験など、飼育係だからこそ語れる、きっと図鑑には載っていないお話をぎゅうぎゅう詰め込みました。レクチャー後には、ペンギンの羽や卵を触ってみたり、飼育係お手製の巣材の石で作った足つぼマットに乗ってみたり(子供は平気で大人は痛い!笑)、さらにはエンペラーペンギンになりきって抱卵体験の写真撮影などお楽しみ時間も。参加者はファミリーからおひとり様まで様々でしたが、皆様のペンギン愛♡が溢れる時間となりました。



イベント最後のお見送りは、当館マスコットキャラの「ギンペー」が担当! 久しぶりにグリーティングに登場できた「ギンペー」もうれしそうでした。

■ 営業企画課 佐藤 ちづる

春の季節展 「春はあけぼの水槽」

春の季節展といえば「桜」にちなんだ生き物が連想されがち? な気がします。そこで今回は平安時代に清少納言によって書かれた随筆「枕草子」からヒントをもらい、一風変わった視点で企画しました。冒頭の季節の章段に出てくる「春はあけぼの～」は学校で暗唱した記憶がある人も多いはず! と思い、「あけぼの=夜明け」のような模様が美しいアケボノハゼを紹介することにしました。ちなみにダイビングが趣味の私にとってアケボノハゼは好きな生き物の1つです。伊豆諸島や高知県柏島、琉球列島などで観察できる種類ですが、生息水深が40m程と深いです。そのため水中で滞在できる時間も短くなってしまい、ゆっくりと見ることができません。ですが、ここは水族館のいい所! 今回の展示ではアケボノハゼの行動や模様の美しさを思う存分にじっくりと観察できます。もちろん、私も飼育係目線&ダイバー目線となってしっかりとその姿を目に焼き付けることができました!



学生時代にダイビングで撮影したアケボノハゼです。美しさに感動する余裕もなく、浮上しました(笑)

■ 飼育展示第一課 浅井 堅登

水族館トピックス 2024 夏

大規模災害発生を想定した相互救援に関する基本協定を結びました

能登半島地震をはじめ各地で大きな地震が頻発するなど、さまざまな災害リスクが高まっている状況から、東京都葛西臨海水族園、新潟市水族館マリニピア日本海及び当館の三者で「大規模災害相互救援に関する広域連携基本協定書」を令和6年3月31日に締結しました。(同年4月1日適用)



災害の規模が広範囲にわたると、近くの水族館同士の協定では機能しない可能性があるため、関東地方、日本海沿岸、東海地方の離れた園館で協定を締結し、大規模災害の発生に備えるというものです。

協定を締結した園館が震災等で被災し、飼育施設機能の維持に救援が必要となった際は、人的・技術的支援、物資の提供等を相互に行い、生物の保護及び施設の早期復旧に努めます。

(主な救援内容)

- 救援を必要とする被災園館への物資提供・運搬及び人的・技術的支援
- 救援を必要とする被災園館からの生物等の避難・移送・一時保管等
- 平常時における施設間の情報交換

■ 総務管理課 山崎 正勝

名古屋港ガーデンふ頭の生物③ ～魚類編～ 飼育展示部 春日井 隆

本誌114号『エビ・カニ編』、119号『軟体動物編』に続いて『魚類編』です。名古屋港水族館では開館した1992年以降、ガーデンふ頭で確認された生物を記録し、一部は標本として保管してきました。今回、2022年までの約30年間に採集された魚類の標本を整理し、種類を調査したところ12目33科46種を同定(種名を明らかにすること)し標本として登録できました。

ガーデンふ頭において遊泳している様子が頻りに確認できるのは今回標本として登録した種類ではサッパ、スズキ、ボラで、特にボラは沿岸の海面をすべ覆いつくすほど出現することがあります。これまで標本は得られていませんが、アカエイ、コノシロ、クロダイも頻りに確認できる魚類です。魚類は遊泳力が強いため、泳いでいる姿を確認できても採集となかなか難しいのです。定性性または護岸壁のカキ殻内で生息しているようなハゼ科、インギンボ科魚類などは普段は姿を確認することはできません。しかし、名古屋港内は夏から秋を中心に底層付近の酸素濃度が低い状態が続き、台風通過後などに時折この低酸素の底層水がまきあがる現象(苦潮または青潮)が起き、この時に酸素欠乏でこれらの魚類が弱って浮き上がるので簡単に採集ができるのです。

約30年の調査の中で、伊勢湾最奥に位置するガーデンふ頭にシロシムクザメ類が出現したことは特筆に値します。今回標本登録したシロシムクザメ1個体(2002年1月8日採集)は瀕死状態であり回復飼育を試みましたがほどなく死亡したので記録として標本にしたものです。その後2021年1月14日にも1個体の遊泳を確認(頭部の形状からシロシムクザメであったと思われる)しましたが、この個体は弱った様子はなく水面を遊泳していました。

まだ保管している標本の中には、稚魚期のものや、成魚であっても近縁種が多く同定が難しいハゼ科魚類などがまだ複数います。また、2023年以降も新たな魚種が確認されているのでこれらは次の機会に紹介したいと思います。

メジロサメ目	シロシムクザメ
シロシムクザメ科	シロシムクザメ
ウナギ目	
ウナギ科	ニホンウナギ<EN>
アナゴ科	マアナゴ
ニシン目	
ニシン科	サッパ
カタクチイワシ科	カタクチイワシ
サケ目	
シラウオ科	シラウオ<VU>
サケ科	アマゴ(サツキマス)
トゲウオ目	
ヨウジウオ科	ヨウジウオ
	ガンテンイシヨウジ
ボラ目	
ボラ科	ボラ
トウゴロウイワシ目	
トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ
カダヤシ目	
カダヤシ科	カダヤシ<外来>

ダツ目	ダツ
ダツ科	ダツ
スズキ目	
メバル科	シロメバル
	クロソイ
	タケノコメバル
	カサゴ
ホウボウ科	ホウボウ
コチ科	イネコチ
スズキ科	スズキ
ハタ科	キジハタ
アジ科	ギンガメアジ
ヒイラギ科	ヒイラギ
イサキ科	コショウダイ
チョウチョウウオ科	トゲチョウチョウウオ
カワスズメ科	ナイルティラピア<外来>
ニシギンボ科	ギンボ
	ニジギンボ
インギンボ科	イダテンギンボ
	トサカギンボ

ネズボ科	ハタタテメリ
	トビハゼ<EN,VU>
	マハゼ
	アカオビシマハゼ
	シモフリシマハゼ
ハゼ科	チチブ
	ウロハゼ
	ドロメ
カマス科	アカカマス
タチウオ科	タチウオ
サバ科	マサバ
カレイ目	
カレイ科	イシガレイ
	マコガレイ
ウツノシタ科	ゲンコ
フグ目	
ギマ科	ギマ
フグ科	トラフグ



2021年1月14日に確認されたシロシムクザメと思われる個体



ガーデンふ頭に多く生息しているスズキ。50cmを超える個体も確認できます。



2019年12月20日に採集したアマゴ(サツキマス)。吸虫類の寄生によりかなり衰弱していたが、飼育下で回復し展示しました。



2021年10月2日に採集されたトゲチョウチョウウオ。本種はサンゴ礁域に生息する熱帯種のため死滅回遊魚と思われる。

名古屋港ガーデンふ頭で採集され標本登録した魚類(1992年~2022年まで)
ニホンウナギ、シラウオ、トビハゼは愛知県および名古屋市のレッドリストに掲載されています。(絶滅危惧IB類(EN)、絶滅危惧II類(VU)) カダヤシ、ナイルティラピアは近隣の河川に生息する淡水魚でともに外来種です。

ほわほわ探検隊

シャチの全身骨格 飼育展示第一課 大島 由貴

鯨類の骨には水中生活に適応するための進化の壮大さと面白さがたくさん詰まっています。

例えば頭骨。シャチは頭の上に鼻の孔があります。そのあたりの骨をよく観察すると、上の歯が生えている上あごの骨と鼻の孔の真下に位置する骨が同じものだとわかります。実は、おでこの骨に上あごの骨が覆いかぶさるような形になっているのです。

進化の海コーナーにある骨格と解説板を見比べて、不思議な変化を観察してみてください。



解説板の文章は私が担当したもので、思い入れも強い展示です。

北館2階 進化の海

ボランティア 志村 雄一郎

「イルカパフォーマンス」が終了し、興奮冷めやらぬうちに是非お勧めしたい場所が、二階奥にある「進化の海」コーナーです。ここでは博物館に勝るほど充実したクジラ全身骨格や頭骨のレプリカ展示を始め、その生態と人間や環境との関わりで生ずる問題等、幅広い知見で紹介しています。そして、5000万年を遡るクジラの祖先から現在世界中に棲息しているクジラたちに至る興味深い進化の過程をつぶさに知る事が出来ます。見るたびに新しい発見があり、しばしクジラ博士気取りにさせてくれる贅沢な空間でもあります。



「進化の海」は北館のテーマ「35億年遥かなる旅～再び海へ戻った生き物たち～」を標本で説明しています。



こんなところに人が!?水族館のボランティアが解説中です。姿を見つけた際にはお気軽にお声がけください。

水族館スクールレポート School Report

3月26日 名古屋港スナメリ観察会

飼育展示第二課 加古 智哉

名古屋港には冬から春にかけてスナメリが訪れます。その野生の姿を見てもらおうと、参加者を募集して船からの観察会を行いました。当日はスナメリの生態や探し方を説明した後、水族館のすぐ横から乗船し、期待に胸躍らせながら出航!参加者と職員で目を皿にして観察すること約2時間、合計で10頭ほどのスナメリを観察することができました。帰港後は観察を振り返り、名古屋港の生態系の豊かさや環境などについてレクチャーを行いました。ほとんどの方がスナメリを見ることができたと同時に、名古屋港に浮いているゴミなども見て、海のゴミの問題や名古屋港の環境についても考えてもらえたようです。終了後のアンケートでは、ゴミをポイ捨てしない・増やさない、生活排水に気をつける、といった意見が多数見られました。スナメリの観察を通して、自分達の生活と海とのつながりについても考えることができ、とても実りある観察会になったと思います。今後も継続して観察会を行い、スナメリや名古屋港の環境について考えてもらうきっかけを作ってまいります。



出発前にスナメリの生態や探し方をスライドと動画を使って説明しました。



悪天候のため船室からの観察となりましたが、すぐ近くでスナメリを見ることもできました。